

調査研究員を学外公募

スポーツ推進センター

作新学院大、10月開設で

作新学院大(宇都宮市竹下町)は21日、県庁で記者会見を開き、プロスポーツチームの経営やイベント誘致などについて研究する「スポーツマネジメント推進センター」(センター長「小山」さなえ経営学部准教授)を10月1日に開設すると発表した。センターには、二つの部会を設け、調査研究を行うメンバーを学外から公募する。



記者会見でセンターの意義について話す太田学長(左)

設ける部会は、プロチーム選手育成法や引退後の働き方などを研究する「人財育成・活用」。部会長はそれぞれ同大の教員が務め、月一回のペースで会合を開いて公募メンバーと調査や研究に取り組む。その成果をプロチームや行政に提言したり、講演会などで県民に紹介したりする予定だ。

センターの方向性を決める企画運営委員会には、県内企業の役員や行政担当者も参加。副センター長には県内四つのプロチームの運営会社の役員が就任する。

るなど、県内スポーツ関係者が名を連ねた。太田周学

長は「栃木ならではのスポーツ振興のあり方を研究する場にしていきたい」と話した。公募についての問い合わせなどは、作新学院大地域連携支援センター(028・667・7111)へ。

2014年(平成26年)8月22日(金曜日)

下野新聞

スポーツ振興、地域活性化へ
作新大に推進センター

10月開設



スポーツマネジメント推進センター設立の概要を説明する作新学院大の太田学長(左から4人目)＝21日午後2時、県庁記者クラブ、桜井誠撮影

教育なども進める。センター長は同大の小山さなえ准教授が就任。実務の中心となる企画運営委員会は、プロチームの関係者に加え、県経済同友会や県宇都宮市、日光市、佐野市などの自治体関係者も加わる。「スポーツ振興」「人財育成・活用」の二つの部会を設置し、実践的な事業を展開、スポーツの多面的発展を図る。

会見で太田学長は「2020年の東京五輪や22年の栃木国体などを追い風に設置を決めた。大学の中の閉じられた組織にはせずに、地域と歩みを一つにするような組織としていきたい」と述べた。(桜井誠)

作新学院大(太田)周学長は10月1日、大学の付置機関として「スポーツマネジメント推進センター」を開設する。県内のプロスポーツチームや経済界と連携し、スポーツ振興や地域活性化を促進するのが目的。太田学長やプロチーム代表者、県内経済関係者らが21日会見し明らかにした。同大は昨年9月、人材活用などを目的にサッカーJ2の栃木SC、バスケットボールのリンク栃木ブレイクス、アイスホッケーのHC栃木日光アイスバックス、自転車ロードレースの宇都宮ブリッツェンと連携協定を締結。今年4月には、スポーツを核にした資源を地域活性化に連動させる「栃木モデル」構築を目的に、研究会も発足させた。推進センターは、「栃木モデル」構築のための活動をより本格化させる。調査・研究・提言を行うシンクタンク機能などを併せ持つほか、スポーツマネジメントの人材育成、活用に向けた選手のセカンドキャリア

スポーツ軸に地域振興

作新学院大 研究組織を開設

作新学院大(宇都宮市)は10月、スポーツを軸に地域振興を研究する新組織「スポーツマネジメント推進センター」を開設する。サッカーJリ

設ける。スポーツ振興部はスポーツをビジネスとして成功させる方法やチーム経営などを研究。人財育成・活用部会では選手のキャリア形成や引退後の働き方、生涯スポーツなどを調査する。研究成果は来年2月をメドに「栃木モデル」としてまとめる。今年度か

ら経営学部内に設けたスポーツマネジメント学科の授業にも成果を活用できるとみている。21日に記者会見した同大の太田周学長は「スポーツチームとの連携策を具体的な成果として形にする。栃木にスポーツ文化を根付かせていく」と話した。